

今月の指導

初等教育研究所 福本 菊江

音読指導を系統的・継続的に！！

新学期が始まって一ヶ月余り経ちました。教室での子ども達の様子はいかがですか。明るく、元気な声が出ていますか。授業中、みんなに聞こえる声で発表ができていますか。はっきりと大きな声で、音読や朗読ができていますか。

発表の声がはっきりとしていて、お互いに高め合う雰囲気の話し合いの場をつくるには、どのような指導をすればよいのでしょうか。

では、解決策の一つである音声言語の基礎の指導について取り上げてみます。

新指導要領では、音声言語の指導が重視されています。音読は、系統的・螺旋的に、また段階的・反復的に、身に付くまで繰り返し指導することが大事です。音読指導を基礎からきちんと指導することで、話す力や表現力が付いてきます。また、何より授業が活性化します。是非取り組みましょう。

自分の思いや考えを相手に伝えることは、簡単で易しいことのようにですが、なかなか難しいものです。でも、系統的・継続的な指導で見違えるように変わっていきます。

1 定着させたい音読スキル

正しく、美しく、分かりやすい音読をするには、正しい発声・発音が不可欠です。この指導は、1年生から行いますが、どの学年も大切です。つまり、音読・朗読をするには学年や年齢を問わず、いつでも正しい発声・発音が基本です。

音読の基礎的技能には、発音・発声・間・リズム・アクセント・イントネーション・プロミネンス（強調・緩急）・速さなどがあります。これらの技能を系統的・継続的に指導することが大事です。

では、どんな指導をすればよいのでしょうか。正しい指導を継続することで、児童の音読は見違えるように変わっていきます。

(1) 正しく、美しく、分かりやすい音読・朗読をするには！！

○声を出す四つの秘密

<p>1 いい姿勢</p> <p>○立つ・・・背中ピン・足を肩幅に開きまっすぐ立ち、あごをひき、お腹をひっこめる。</p> <p>○座る・・・背中ピン・椅子に浅く腰をかけ、あごをひき、お腹をひっこめ、足を床につける。</p> <p>机とお腹の間は握りこぶし一個分</p>	<p>2 正しい呼吸 (腹式呼吸)</p> <p>○ 背中ピンで両手をお腹に当てる。大きく息を吸い込んで、下腹部を膨らまし支える。少しづつ息を吐き、全部吐ききったら、大きく息を鼻から吸い込み、フツフツで吐き、スツスツで吸う。身に付くまで繰り返し返す。</p> <p>(吐く) (吸う) (吐く) (吸う)</p> <p>フツフツ スツスツ フツフツ スツスツ (吐く)</p> <p>フツフツフツフツフツ フツフツフツフツフツ</p>
<p>3 正しい口形指導 (母音の口形指導)</p> <p>鏡を見ながら口形練習 (無意識にできるようになるまで)</p> <p>友達同士で教え合い。</p>	<p>4 滑舌 (舌をなめらかに)</p> <p>レロレロ体操 (かえるの歌のメロディーをレロレロで歌う。</p> <p>だんだん速くする。一音一音はつきりと！</p>

(2) 授業の始まり5分間を使って基礎の指導を徹底しましょう。

基礎的技能を身に付けるための繰り返し訓練は、詩の教材を使って定着させるとよいです。

<p>おがわのはる</p> <p>あいうえおがわに</p> <p>かきくけこおりも</p> <p>さしすせそろつた</p> <p>たちつてとんではる</p> <p>なにぬねのはらの</p> <p>はひふへほんとはる</p> <p>まみむめものかげ</p> <p>やいゆえよしのめ</p> <p>らりるれろろん</p> <p>わいうえおがわに</p>	<p>青戸 かいち</p> <p>はるがきた</p> <p>もうとけて</p> <p>つくしんぼ</p> <p>もんしろちよう</p> <p>ひばりのこ</p> <p>うれしいな</p> <p>めだかのこ</p> <p>よけていく</p> <p>うたうみず</p> <p>はるがきた</p>
--	---

(3) 詩の音読で

「思いつきは重いつけ」と言われるように、年間指導計画に音読・朗読の技能を位置付け、意図的・計画的に指導することが重要です。